

令和2年度 第1回 学校運営協議会まとめ

大阪府立泉北高等支援学校

- 【1】 実施日時 令和2年7月22日（金）午後3時30分～午後5時
- 【2】 実施場所 本校応接室
- 【3】 出席委員 田村 仁彦氏（元堺市立上神谷支援学校 校長） 協議会会長  
八田 忠敏氏（元社会福祉法人コスモス理事長） 会長代理  
井上 直子氏（堺市子ども相談所参事）  
松林 利典氏（堺市障害者就業・生活支援センター センター長）  
島村 俊樹氏（堺市立上神谷支援学校校長）  
伊庭 裕美氏（大阪府立泉北高等支援学校 PTA 会長）

【4】 内 容

① 開会(教頭)

配布資料を確認

本日の協議会の成立を確認

② 校長挨拶

③ 会長・委員自己紹介

④ 協議

(1) 「令和2年度学校経営計画」について

校長より中期目標3点の中から重点目標を中心に説明を実施

学校組織を構成する教員が引き継いでいけるように取り組みを進める。

1 生活自立コース、社会自立コース、就労支援コースの教育課程等の充実を図る。

(1) 教育課程の改善

各コースで目標に基づいた教育活動を展開する。シラバスを作成し、教育活動を保護者に説明する。1年時に明確な目標を立て、3年間の計画をする。目標を定め、教育計画をたて、教育課程を作っていく。

(2) 職業に係る授業を通じ、生徒のチャレンジする意欲を育む。

課題として就労支援コースの生徒たちへの就労への意義付けが弱い。授業の内容を含め、就労支援コースの授業担当者、進路指導部と連携しシラバスに基づいた教育計画を進める。

(3) 個別の教育支援計画、個別の指導計画等の充実を図る。

個別の教育支援計画の書式を見直し、次の支援者が読んでわかりやすい

書式とした。3年後に形ができる。アセスメント期間を2か月とし長期目標から短期目標を立てていく。評価2回制とし、3年間で6ターンで見ることにした。

## 2 支援教育力の向上

- (1) 思春期における課題への支援、健康教育の充実を図るとともに、教職員の専門性の向上を図る。

性教育は非常に大切である。被害者にも加害者にもならないよう導く事が必要である。大阪大学大学院の野坂準教授と引き続き連携を進めるが、難しいところもある。教科の中でも取り組んでいく。教育課程についても、ライフスキルを保健、社会生活を家庭と位置づけ横断的に取り組む。

- (2) センターの機能の役割を果たすとともに、地域連携の充実に努める。堺市教育委員会支援教育課と連携を進める。地域の小中学校（本校の校区）に、年10回程度相談支援に出向くことができるようになった。
- (3) ICTを活用して支援教育力の充実に努める。

夏期休業中に無線ルーターの設置を行い、校内のWi-fi環境の構築を行う。情報係りと進めていく。またコロナ対策予算を活用し、ICTの充実に努める。ipadを増やす、プロジェクター等をすぐに設置できるようにする。教員への研修も年間3回実施する。

## 3 安心で安全な学校環境づくり

- (1) 生徒が自身の健康管理に努め、生徒同士がお互いに人権を尊重する学校づくりを進める。

共に学び、共に育つ、お互いに理解しあえるようにどうするか。いじめはほとんどない状況であるが、各クラスで今後も気を付けていく。

- (2) 危機管理体制を更に堅固なものとする。  
年間の避難訓練、生活安全、交通安全、防災安全、に座学も含めて引き続き取り組んでいく。

- (3) 部活動生徒（生活）指導の充実に努め、自己肯定感を育成する。  
コロナ感染症の影響で、部活動もしばらくできない状況であった。大阪の感染状況がひっ迫しているため、8月中の活動についても憂慮している。

まとめの年度であり、校長が先頭に立っていくのではない。校長が言ったからではなく、教員自らが、与えられた仕事を考えてできる組織にしていきたいと考えている。

## 評価指標について

1 (1) (2) について、学校教育自己診断での定点観察の平均を考慮して目標立てをしている。(3) は個別の教育支援計画の振り返りで評価とする。地域の幼稚園、保育所、小学校(小学部)、中学校(中学部)のものを引き継いでいくことを、地域で徹底していく。

2 (1) 学校教育自己診断の定点観察を指標とする。(2) 今年度運用開始であり、10回の支援を行う。今後は増やしていきたい。(3) 物品の購入と合わせて研修を3回以上実施し、教員のスキルアップを図りたい。

3 (1) 学校教育自己診断の定点観察を指標とする。(2) 安全に関わる授業を展開できたか、2次避難所をせっていできたかを評価指標とする。(3) 部活動については今年度についてはコロナウイルスのため活動の制約があり、評価できない可能性がある。

- 意見
- ・シラバスの様式について、他の学習グループのシラバスの閲覧はできるのか、個別の指導計画に落とし込むことができるのか。非常に大切な取り組みである。支援教育に不慣れな教員もいると思うが、参考にできるようになっているのか。  
⇒シラバスはフォルダで共有できる状態である。個別の教育支援計画が教育活動と連携しているのか、書くだけではだめで、使わなければならないと先生方に伝えている。
  - ・チームで取り組むたたき台にして時間をとって話し合っていく取り組みが進められたら、よいものになるのではないかと。  
⇒チームティーチングは話すことが基本であるが、時間を作るのが難しい状況ではある。
  - ・コロナ対策予算活用で、タブレット購入されるとのことだが、万が一休業になった際の家庭学習のツールとしての活用はあるのか。  
⇒現在24台のタブレットがあり、12台を追加で購入予定。36台で授業を4展開することを考えている。
  - ・校長先生の3年間の集大成として、頑張っていたきたい。障害者就業・生活支援センターも全国で設置がすすみ、335センターとなっている。80%の設置となった。数字の表現が難しいところ。アンケートの表現でも85%めざしたとし、到達できなかった時の理由のほうが大切である。たりなかったところがどこかを先生方に聞いてほしい。到達できなかったところの改善点について評価してほしいというような話があってこそその評価である。数字の中にみえる教師、保護者、本人の願いを表現することは難しい。永遠の課題である。

- ・次々と災害に似たような状況が起こっている。それをどうやって乗り切るか。恐れていても仕方がない。恐れながら、いかに生活の中に落とし込むかを考える毎日である。コロナの状況下で、話し合う大切さを感じている。時間のない中で意見を一致させて次を見ていくことが多い。世の中が不安な状況では、子どもたちに大きく影響する。
- ・学校教育自己診断のアンケートで、「わからない」という項目の回答は学校の様子を保護者に見えないからではないか。保護者は連絡帳が頼りである。学校での子ども様子を具体的に書いていただきたい。そうすればおのずと「わからない」という回答が減るのではないか。
- ・コロナ対応では、通学バスの密の状況が気になる。窓も常時開けられないし、対策をしてほしいと感じる。学生の兄弟姉妹がいる生徒も多数おり、感染が広がることも考えられる。  
⇒バス乗車前の検温なども検討したが、出発前の家庭での検温とした。引き続きのご協力をお願いしたい。毎日のバスの増便は難しい。修学旅行などでは密を回避するためのバスの増便も行っている支援学校があると聞いている。デイサービスの送迎者も密な状況である。
- ・コロナの状況で学校から引き継いだ利用者の面談ができていない。少しずつ再開している。引き継いだ情報を共有し、統一化していく。現在のところ離職者は少ないが、待機の方の対応や、休業補償をどうしていくか。第2波がきたら、企業が持ちこたえられるか。利用者と連絡を取りながら、情報共有と顔の見える関係でよりスムーズに引き継げるようやっていきたい。
- ・学校経営計画をみて、改めて学ばせていただいた。事業所に持ち帰って話し合ってみたい。今回のコロナ禍で、緊急事態が起こった時こそ余裕がないと難しいと感じる。ハード面、人的にも合理的・効率よくと、教育福祉の予算が削られていく。まったく余裕のない状況である。その中でどう対応するのか。計画を実践につなげるためには、ムダといわれることも、緊急事態ではムダではないと感じる。先生方が実践して評価したこと、目標に到達できなかった要因がどこにあるのか。学校を経営していく中で制度的な問題は含まれていないのか。その点も重要ではないかと思う。制度そのものを変えていく確信を持ってやっていくことが大切。

(2) 教科書選定について  
進捗状況について教頭より報告

(3) その他  
保護者からの意見書、校長 D メールについて  
無しの旨を教頭から報告

⑤ 会長まとめ  
連絡帳のていねいなやりとりでアンケート結果も変わるのでは、という前向きな意見もいただいた。校長先生が常に、幼稚園、保育所、療育の場からの支援計画を引き継いでいきたいとおっしゃっている。堺市でもアイファイルを配布している。書くのが負担であるという保護者には、作成したものはさみこむだけでよいと伝える。支援のつながりが大切であり重要である。これから、課題もあるが、泉北高等支援学校の生徒・保護者・教職員の皆さんがいきいきと過ごしていけるよう願っている。

⑥ 校長より謝辞

⑦ 事務連絡  
次回の日程について  
11月6日(金)